

東松島市 小学低学年の英語教育推進

石巻地方初

文科省が特例校指定

本年度矢本西、赤井南2校で

東松島市は文部科学省から教育課程特例校の指定を受け、市内8小学校のうち、本年度は矢本西小と赤井南小の2校で1、2年生から英語教育に取り組み、小学低学年は英語の発音やリズムに慣れ、外国人と積極的に交流する姿勢を育む。特例校の指定は石巻地方で初めて。

従来、コミュニケーション能力の素地を養う外国語活動は3、4年生が年間35時間、教科としてのくくりとなる英語は5、6年生で

年70時間確保されている。特例校は学習指導要領の基準によらず、独自に教育課程を編成できる。特例校指定により、1、2年生は

生活科と他の教科の余裕時間を活用して年30時間を外国語活動に充てる。

英語専科教員と外国語指導助手(ALT)が授業を主導し、担任がサポートする。児童は早い段階から英語に親しみ、視野を広げる。他者との意思疎通を図る能力が育まれることで学力向上にもつながるといふ。市教委は白石市など先進

地の事例を参考にしながら、児童の実態や社会環境を踏まえた英語教育を推進していく。本年度は矢本西小と赤井南小の2校で先行実施し、来年度から全8校で取り組む方針。

市は昨年8月、文科省に特例校への指定を申請し、今年3月8日付で指定された。市教委の村岡太学校教育管理監は「最終的にグローバル化に対応できる人材を育てたい」と話した。

元気に「アイム ハッピー」 矢本西小1年生 ALTとの授業楽しむ

矢本西小(児童308人)では1、2年生それぞれ2クラスで、ALTと担任、英語専科教員と担任の2人一組で外国語活動の授業をしている。
5月27日にあった1年2組(24人)の授業は「なま



ロシオさんが主導する外国語活動の授業を楽しむ児童たち
=矢本西小1年2組

えをつたえよう」。ALTのロシオ・ガルシアさんが、英語で「How are you?」と子どもたちに質問。男の子や女の子が「アイム ハッピー」「アイム ハングリー」などと元気よく答えた。授業に溶け込めるよう音楽を流したり、手拍子を入れたり。盛り上がりつつある中で、英語であいさつの練習ペアになって「What's

your name?」。担任の伊藤拓真教諭が「my name is タクマ」と自己紹介を交えて答え方の模範を示した。ロシオさんも積極的に話しかけ、児童たちとの距離を縮めた。酒井勝則校長は「低学年では英語に慣れ、親しむことが大切。授業を通じて英語の楽しさを実感してほしい」と期待する。

教育

2022年6月2日付 「石巻かほく」掲載